



追悼 亀之内昌武理事長

訃報 前文

岐阜県日中友好協会の亀之内昌武理事長が6月25日未明、がん性腹膜炎のため岐阜市の病院で死去されました。82歳。美濃加茂市出身。故人、遺族の遺志で葬儀は近親者のみで営まれました。

亀之内理事長は笑みを絶やさず太っ腹な方でその半生を日中友好に捧げられました。謹んで哀悼の意を表すと共に、故人の遺徳を偲び追悼文を掲載します。

◆ ◆ ◆ 和平竜に込めた平和と友好

亀之内昌武理事長とは長い交友を重ねて参りました。それだけに思い出は尽きません。最近の話題といえは6年前、岐阜県と中国江西省の友好都市提携20周年を記念して古田肇知事と同省都南昌市を訪問の折、亀之内さんとともに同市を訪れました。

その際、亀之内理事長は日本からお土産として「和平竜」を同市記念公園に寄贈し、日中平和・友好のシンボルとしての役割を果たそうと尽力されました。彼は根っからの中国を愛する男で海外旅行は中国だけではないかと思うほど熱烈な中国への理解者だったと断言できます。従って岐阜県日本中国友好協会にとって、彼の存在はある意味、協会の「顔」であったと思います。

いまその「顔」を失い、これからの協会をどう立ち直し運営するか大きな課題に直面しています。しかし、若い人たちが彼の遺志を継ぎ必ずこの悲しみを乗切つてがんばってくれるものと確信しております。亀之内さんどうぞ安らかに。そして後輩たちの活動をやさしく眺めてやって下さい。

岐阜県日中友好協会 会長 杉山幹夫

友好都市の交流に心血注ぐ

2010年9月、名古屋駅からウエスティンゴヤキャッスルに向かうシャトルバス車内での話。中国駐名古屋総領事館主催の建国61周年祝賀会に出席するため偶然乗り合わせた。尖閣諸島付近で、中国漁船が海上保安庁の巡視船に衝突した事件から2週間余。当然、日中関係の今後が話題になった。

「日本と中国の両政府は昔から何か事が起きると、どちらも我こそ正しいと主張し合う。これではいつまでたつても問題は解決しない」。嘆かわしい表情が見て取れた。

船長起訴(後に釈放が明らかになると、中国は次々報復カードを切った。閣僚級の往来停止、日本への観光客縮小、日本企業社員4人を「許可なく軍事管理区域を撮影した」として身柄を拘束した。

「打開策はありますか」と亀之内理事長に問うと、「相手のことを考えなければエスカレートするばかり」と応え、こんな体験話を始めた。

1966年4月、中国政府が認めた「友好商社」として広州交易会に参加したときのこと。長旅に備え司馬遼太郎著「国盗り物語」を携帯した。空港の税関で待たされた。係官は題名を見て「国を盗むとはとんでもない書物」と持ち込み禁止に。いくら説明してものれんに腕押し。横柄な態度で帰国する時返してもらえず、没収されたままになった。

「無知から来るいい例だ」。日中国交正常化前、中国では文化大革命が始まる前夜。外国との交流や情報を閉ざし、政治闘争に明け暮れるとき、どんな結末をもたらすか。

「過去の経験を生かし、民間交流を活発にするし

かないね」と破顔微笑。険しい顔から人懐こい顔になった。中国漁船衝突事件は解決するどころか、日中不測の事態が懸念される。

亀之内理事長は「日中再び戦わず」の固い信念に基づいた友好交流に捧げた半生だったといえる。「岐阜市と杭州市の交流に大変心血を注いで活動されていきました」と40余年の付き合いになる東海日中貿易センター専務理事の原田泰浩氏は語る。

1995年、杭州市での合弁企業「杭州康達清速食品有限公司」の設立、経営に参加。2003年まで副理事長(副社長)を務めた。

高校の大先輩である亀之内老公と出会って10余年。日中関係に関心を寄せる私に往時を回想されるようになったのは「ナツメの木は生きています」を脱稿した頃。「よく書けている」と秘話をボツリボツリ。「早く聴いていたら」と悔やんでもあとの祭り。岐阜県日中友好協会が発行できたのは、亀之内理事長の決断のおかげだ。協会員一同、志を継ぐこととお約束します。安らかに眠りください。

合掌 副理事長 土屋康夫



2014年4月27日、岐阜県日中友好協会主催の追悼会にて、日中友好協会の役員らと記念撮影

日中友好庭園を訪れた中国の葛廣彪駐名古屋総領事夫妻一行と並んで記念撮影に収まる亀之内昌武理事長。岐阜県日中友好協会での最後の活動となった12月27日、岐阜市御手洗 (岐阜新聞提供)

総会にて新体制発足

高山市・瑞浪市両市長を副会長へ

5月31日、当協会は岐阜市神田町の岐阜商工会議所で、定期総会を開催しました。今回は今年度の活動の大方針を決議するとともに、新たに副会長に國島芳明高山市長と水野光二瑞浪市長が就任する役員改選を承認しました。

杉山会長は「日中関係は政治的には不幸な時代だが、国交正常化前から全国に先駆けて岐阜から民間交流を進めた先人の知恵に学ぶ必要がある」と強調され、「役員に両市長をお迎えしたことを第一歩に、この1年間で組織を作り直して活動を活性化し、会員を増強していく」と改革への強い決意を語られました。

両市では中国殉難者の遺骨送還運動に取り組まれた歴史があり、中国には友好都市も持っています。國島市長は「交流をさらに深め、協会発展のため努力する」と語られ、水野市長も「大役を



写真提供：岐阜新聞

いただいた。歴史的な縁を大切に交流を進める」と抱負を語られました。本年度の事業としては、10月に岐阜市・中国杭州市の友好都市提携35周年にちなんで訪中団を派遣するほか、講演会の開催や新たな中国語講座の開設などを決めました。

役員改選ではこのほか、親切の特別顧問に村瀬恒治副会長、空席であった副理事長に土屋康夫理事が就任。土屋康夫新副理事長は留任した亀之内理事長のご病気に伴い、理事長業務を当面代行することとなりました。新たな理事には、庄暁暉岐阜華僑華人会会長、石川道政前美濃市長が就任されました。(岐阜新聞より)

亀之内理事長の後任に土屋副理事長

緊急理事会で役員一部改選

亀之内昌武理事長の死去に伴い7月7日、岐阜新聞本社で理事会が開かれ、後任理事長に土屋康夫副理事長を選出しました。

当協会は来年設立60周年を迎え、組織の再編強化が課題となっており、早急に役員体制を整えるため杉山幹夫会長が緊急理事会を招集しました。

理事会では亀之内理事長を悼んで黙とうした後、議事に入り、土屋副理事長を後任理事長とする役員改選案を賛成多数で承認、任期は亀之内理事長の残任期間としました。

土屋新理事長は「来年協会は創立60周年を迎えるが、会員の拡大と組織強化が喫緊の課題。先人たちが掲げた日中再び戦わずの信念を次世代へ引き継ぐため頑張りたい」と就任あいさつしました。

程永華駐日中国大使来岐

程永華駐日中国大使が5月23日、岐阜新聞本社を訪れ、当協会 杉山幹夫会長と会談されました。お話の中で程大使は流暢な日本語を用いて、今の日中関係について「(両国の国交正常化前から民間交流に尽くした)先人の精神を今に生かし、隣国同士、友好的に付き合っていかなければならない」と話されました。

杉山会長は、国交正常化の10年前に岐阜市と中国杭州市が碑文交換に至った歴史を説明し、「日中関係は所によって激しい雨だが、片づく日は遠くない。民間レベルでは五月晴れのようなすがすがしい関係を続けた」と強調しました。



写真提供：岐阜新聞

知日派で知られる程大使は、訪中団長として碑文交換や碑の建立にリーダーシップを発揮した杉山会長の岳父故・山田丈夫元本社社長らを「先見の明と幅広い視野があり、信念を貫かれた」と賞賛。「岐阜の地で、多くの人が戦後の中国との関係再建のために尽力してこられたことに感動した」と、民間交流の取り組みをたたえられました。

また「大使に就任して4年余り、両国の関係はいろいろあったが、これからも友好関係を築いていかなければならない」と未来志向の必要性を語られました。杉山会長は「先人の遺志を継ぎ、民間交流を岐阜の地から再び全国に発信し、日中友好のお役に立ちたい」と意欲を示しました。

会談には大使夫人の汪婉参事官、葛廣彪駐名古屋総領事と夫人の呉卓領事、碑文交換に深く関わった岐阜市出身の華井満氏らも同席。一行は会談後、岐阜市の日中友好庭園にある日中不再戦の碑を視察されました。(岐阜新聞より)